

野辺地町

マチュア・ソサエティ を用いたワークショップ 報告書

若手職員 20 名
住民 13 名
(10 代～70 代)

目次

- ・「くらし」分野の事業アイディア
…2 ページ
- ・「しごと」分野の事業アイディア
…5 ページ
- ・「そなえる」分野の事業アイディア
…8 ページ
- ・「まちづくり」分野の事業アイディア
…10 ページ

住民たちが自らの手で自らのまちの事業を産み出す試み

令和7年5月～6月の間、2回に渡って野辺地町において、まちづくりゲーム「マチュア・ソサエティ」（『成熟社会』の意味）を用いたワークショップが開催されました。

マチュア・ソサエティは、まちの人口減少を食い止めるため、

「**A：くらし**」（市街地整備、上下水道、交通、医療、教育・生涯学習、男女共同参画）

「**B：しごと**」（商工会連携、観光開発、食の開発・販促、地産地消、地域外からの収益）

「**C：そなえる**」（防災、防犯、備え、子育て、高齢者支援、障がい福祉）

「**D：まちづくり**」（自治会、町内会、ボランティア、地域活動、交流活動、新たなコミュニティ、勉強会）

…の4分野について、事業の提案をしていくゲームです。参加者は、互いの提案する事業を真剣に評価し合い、高い評価を受けた人が高得点を獲得していきます。

ゲームには住民・職員が参加し、和気あいあいとした中であって、真剣に事業提案が行われ、各会場では最終的な最多得票アイディアも決定しています。

以下では今回の会議で提案されたアイディアを上記の4分野別に記載します。

- ※1 4分野は、記入した参加者本人による定義を重視したが、明らかに異なるものは本稿作成者が分類しなおした。
- ※2 明らかな誤字は修正しているが、多少な行政で用いられる語として通りが悪くても、原文そのままの形（話し言葉等）を生かしている。
- ※3 なるべく文意をくみ取りつつも、どうしても判読不可能なもの、断片的なもの、取組にふさわしくないものについては掲載していない。
- ※4 一部、内容があまりに類似しているものは集約、省略した。



この分野においては、交通網の整備を中心としたアイデアが多く見られました。

・交通網・公共交通・都市計画関連

提案内容

●「交通機関」事業

- ・交通機関の整備。

●「コミュニティバスの設置」事業

- ・遠い地域の高齢者や障害者などと中心街をつなぐバスを設置。公共交通の普及。

●「歩道がない道をゼロ」事業

- ・歩道がない道をゼロにする（白線だけでも）。横断歩道の積極的な設置→毎年、車道の横断中などに高齢者が轢かれている。法では車が悪になるが、車側としても注意がしきれず、どうしようもない→歩道や横断歩道が見えるだけで充分。

●「お助けタクシー事業」事業

- ・「病院に行く時の送迎を行い交通網を整備したい」をコンセプトとし、依頼のあった方を病院へ連れて行く。予算 500 万円。町、警察がサポートする。

●「住民支援が行き届いたまち」事業

- ・無料移動タクシー。老人に憩いの湯（無料）。穴ぼこのない道路。老人の車いすでは道路は使えない。

●「デマンド交通」事業

- ・デマンド交通にして、ドアツードアで、高齢者の人や歩くのが不自由な人、免許を返納した人が買い物などしやすくする。CO2 の削減にもなり、地球に優しい社会になる（温暖化防止）。

●「冬期の住宅整備」事業

- ・冬に安心して暮らせるまちづくり。冬期間に雪で生活が心配な高齢者を集めて生活できる住宅を整備する。その間住んでいない住宅の除雪を町でやる。もしくは希望者がずっと住める集合住宅をつくる。買物できる所。

・施設・設備・環境関連

提案内容

●「新しい働き方のための環境整備」事業

- ・自然豊かな町で自分だけの働き方。テレワーク、youtuber 等の方の住む場所（空き家リフォーム）、環境整備支援（Wi-Fi、パソコン）。予算（5組）500 万+Wi-Fi5,000 円／月、住む場所等 5 万／月。町がサポートする。

●「移住者への助成金」事業

- ・「町に住み続けてもらうために…」をコンセプトとし、町外からの移住者（住宅購入者）に助成金を支給する（1 世帯 100 万円）。予算 1,000 万円（年間 10 世帯）。

●「U ターン・I ターン者への助成金」事業

- ・進学や就職で町外に出た人が戻ってきた時に助成金（5 万円）。25 歳以下対象。

●「空き家のリフォーム費助成金」事業

- ・空き家をリフォームして町に住んでくれる人に助成金（リフォーム費用半額負担）。空き家も減る。町民も増える。

●「愛宕公園レベルアップ事業」事業

- ・公園。自然とお年寄り、子ども、カップル、みんな集まる場。公園は、散歩しながら「行こっかな」と思える場。遊具はもちろん、ボールなど貸し出し OK。愛宕カフェ（ミニ）週 2 出店。学校帰り寄る。体力づくり。健康。

●「一軒家無償譲渡」事業

- ・20 年住み続けたら一軒家を無償で譲渡する。

●「バスケットボールのできる体育館」事業

- ・B1 の試合ができる体育館をつくる。B リーグの試合を見に行くと、たくさんの方がいて賑わっているから。B1 クライマックスシリーズには、野辺地町の人口位お客さんが集まっていた。

・教育関連

提案内容

●「医療関係進学者補助」事業

- ・「町の病院の医師確保」をコンセプトとし、医療関係（大学、専門）、町民で医大等の学校に行く人は無料。病院、学校がサポートする。

●「誰でも参加できる生涯学習施設」事業

- ・「いつでもだれでも成長できるまち」をスローガンとし、住民全てが生涯学習できる豊富な内容をつくり、提案、参加してもらう。予算：相談を受けアドバイスする人に報酬。時給 1,500 円。教育、文化に携わってきた経験者がサポートする。

・医療・健康関連

提案内容

●「(医療) 定期健診がん検診サポート」事業

- ・検査受診するごとに町で使える商品券プレゼント。病気の早期発見治療につながり、人口減少対策になる。(死亡者減) 予算 5 千万とか？

●「医療推進」事業

- ・医療 (専門医の衰退)。小児科、眼科など受診回数の減少。若い研修医を歓迎し育てる。個人医院と契約。医師集まる環境づくり。

・その他

提案内容

●「奨学金給付」事業

- ・現在町に住んでいる人への支援。例) 進学する人に奨学金を給付して、卒業した時に町に戻って町の会社で働いて返済する。

●「結婚祝い金給付」事業

- ・「結婚しやすい町」をコンセプト、「結婚しよう、のへじまち」をスローガンとし、結婚した夫婦に祝い金 (10 万円)。予算 600 万円 (10×12 月×5 夫婦)。町役場がサポートする。

●「馬門で暮らす」事業

- ・「移住者、U ターンの住むエリアとして」をコンセプトとし、空き家が見込まれるエリアを生かす。泊まれるエリアに何も無いを謳う (DIY、OK。畑、田、山あり)。旧馬門小学校を加工場、作業場に。予算：移住対策費の一部を充てる。馬門山族、上野くん独立がサポートする。

●「野辺地新聞事業」事業

- ・「箱の外を考える」をコンセプトとし、why：学校 (今いる場所) と地域がどのように結びついているか学ぶことで、柔軟な考え方を育む。What：地元事業者やインバウンド、文化を取材し、新聞を作成。毎月発行し、飲食店へ配布。予算 50 万 (年間)。小学校、教育委員会、地元企業、活動家がサポートする。

B：「しごと」分野の事業アイデア



この分野においては、商業施設やイベント、観光開発に関するアイデアが多く見られました。

商業施設・観光・食品・レクリエーション関連

提案内容

●「イオンモール的な娯楽施設をつくる」事業

- ・人が集まるところをつくることで地域の活性化につながる。知名度のある企業を誘致。予算 400,000,000 円。

●「フードフェス開催」事業

- ・「食を通じた地域の活性化」をコンセプトとし、地域の飲食店や製菓店などが集まったフードフェスを開催して、町外からの来客を狙う。飲食店の収益も。商工会で協力して行う。

●「団体と協力して大きな行事開催」事業

- ・町にある団体と協力して大きい行事をひとつつくる。誰でも楽しめるイベント。

●「温泉付道の駅」事業

- ・「町に立ち寄るきっかけづくり」をコンセプトとし、温泉のある道の駅をつくる。

●「無人レンタカー配車サービス」事業

- ・「ふらっと立ち寄って町や周辺地域をドライブ」をコンセプトとし、HPから予約して借りれるレンタカーを駅前に設置。知らない町中やその周りを自分で散策し、町に興味を持ってもらう。

●「チェーン店の誘致」事業

- ・働く場所があれば住む人も増える。関係人口も増える。

●「町の良さをSNSで広めちゃおう事業」事業

- ・「町の農産物、水産物をもっと知ってもらう」をコンセプトとし、観光客や町外向けに町の農産とか使ったのを調理して（食開発）、SNS等でアピール、販売。予算 500 万。町、町民がサポートする。

●「観光開発（冬期間）」事業

- ・「世界の人々も楽しむ」をスローガンとし、雪を活用した商業施設。かまくらとかを雪のキャンプとかに使用。

●「新しい特産品を開発」事業

- ・「新たな名物！！」をコンセプトとし、近隣市町村で連携して各市町村の特産品を使った新しい特産品を開発し、売り出す。効果：ふる納↑、SNS等のバズり。団体：観光協力、地域住民。予算：500 万円。

●「野辺地旅館（絶対にここにしかない!）」事業

- ・Why：ビジネス系のホテルしかないため、観光の拠点になる宿をつくることで、ツアー開発や商品開発を進め、発展を促す。What：旅館（伝統芸能や食文化を詰め込んだ唯一のホテル）。Who：食通、インバウンド。Where：大万旅館。When：年間。予算 3,000 万。

●「柴崎レク施設の運営」事業

- ・「町の売りを売る」をコンセプトとし、「おせっかいがすぎるキャンプ場」をスローガンとし、指定管理

として民間委託。企画財政、馬門山族、MarketCaravan、地域事業者、地域おこし協力隊がサポートする。

●「観光誘致」事業

- ・地域外からの収益。野辺地町の立地を生かした取り組み。①低山人気を生かしてエボシ登山と温泉。地元の食材でパック→ふるさと納税対象。予算 300 万円。②馬門小学校を活用した道の駅。予算 1 億円。

●「町外からの誘客」事業

- ・「町外の人に来てもらい買物をしてもらう」をコンセプトとし、町内の名所やイベントに来てもらえるように、駅からの送迎を充実させ、案内板を至るところに設け、お店を出す人たちにも場所や宣伝に支援する。予算？

●「レンタル屋の誘致」事業

- ・ゲオみたいなDVDを借りれる場所がほしい。ゲオがなくなって、大好きなアニメのDVDを借りれなくなったから。

●「アウトドア系レジャー施設」事業

- ・「楽しくあそぶ」をコンセプトとし、アウトドア系レジャー施設をつくり、観光がんばる。マリンスポーツ、キャンプ。

●「観光開発」事業

- ・ 1. 観光開発、販促。 2. 観光資源の価値に気づく。 3. 町民が歴史を学ぶ機会を増やす。ボランティアガイドを増やす。交流施設を考える。 4. 短時間働ける機会をつくる。商工会など各協会。

産業（農業、工業、商業等）、就労関連

提案内容

●「就労支援」事業

- ・野辺地町といえば、「ホタテ」「葉つきこかぶ」、インターンのようにやってみたい人を募集！（給与有）一時滞在地（住居）の場所をつくってあげる。うまくいけばそのまま野辺地に住みたい！働きたい！

●「企業の支援・地域経済の活性化」事業

- ・企業の支援や地域経済の活性化（商工会連携大事）。若者が仕事を求めて都市に移住多い。住みたい、行きたい、人の流れ。働きたい、仕事をつくる。

●「若い」事業

- ・小中学生のうちから職を知り、（町から 30 分圏内の職場など）地元、町に住みながらでも働ける場所があるんだと気付きを。

●「仕事体験」事業

- ・数年間ためしに好きな（やってみたい）仕事をする。まずは体験してみる！！商工会、人員不測の職場がサポートする。

●「仕事体験」事業

- ・多種の職業の開発？設置？多くの働く世代が住み、働けるように、いろんな種類の職業を町に取り入れる。U ターンを増やす。

●「企業誘致」事業

- ・「誰もが知る企業 or お店の誘致」をコンセプトとし、知名度がある企業（お店）を誘致する→雇用促進、人口↑、町への集客につながる。仕事に困らないのへじまち。予算、企業による。億単位。

●「野辺地村塾」事業

- ・Why：企業に求められる持続可能なビジネスを考えるスキルを身に付けさせることで、社会を変える。
What：企業研修（リーダーシップ、SDG s など）。Who：大企業（主に都心）。Where：柴崎牧場、野辺地の山。When：全シーズン。予算 2,000 万。山守、役場がサポートする。

●「農作物の発展」事業

- ・AI 技術を使った農業、水産業。ドローン。データ入りのトラクター。漁船。農林や J A、水産が村のデータを共有できる環境。



この分野においては、子育て支援の提案が目立ちました。

・結婚・子育て支援・高齢化対策関連

提案内容

●「育休、病休、看護（休暇）を取りやすい環境づくり」事業

- ・育休、病休、看護（休暇）を取りやすい環境づくり。町内に住み育休等を取得した人の代替え職員（班）に一時金の支給（町内の企業にも周知）。町、町内（外）の企業がサポートする。

●「“まち”づくり・地域”づくり」事業

- ・結婚、出産、子育てしたい“まち”づくり。安心して暮らしたい“地域”づくり。経済的な不安定（助成金）、育児環境整備不足の影響が考えられる。

●「子育てに対する支援」事業

- ・子育てに対する支援。子どもが生まれた時の支援、生活での支援。

●「子育て相談窓口」事業

- ・子育て相談窓口。子育てについて困っていることを相談できる。

●「出産祝い金給付」事業

- ・「子どもを増やして、子育てしやすい環境にする」をコンセプトとし、出産（1人につき）祝金 50 万、2 人目～+50 万。日用品が買えるチケット配布（毎月）、0 歳～小学未満。1,000 万～2,000 万くらい。

●「子育て支援事業」事業

- ・「出産に係る経費について助成することで、子どもを生みやすい環境をつくるため」をコンセプトとし、出産に係る経費 10 分の 10 助成。予算 1,000 万円。町、保健所がサポートする。

●「各世代への支援」事業

- ・子育て、働き、高齢者、特別世代など該当代に支援サービスを行う。資金等（無償や一部など）。

●「マイホーム新築世帯へ不動産提供」事業

- ・大自然の中で、理想のマイホーム！町の土地。新婚、子育て世代で、町外からの転入や町内転居で新築を建設する人に土地を 0 円で提供。不動産。予算、工事宣伝等 500 万。

●「子育て支援用品配布事業（オムツ、ミルク等）」事業

- ・「生活をより良くするため」をコンセプトとし、数か月ごとに、子ども 1 人当たりにつき 2 週間分など。予算 500 万。保育園などがサポートする。

●「高齢者の健康」事業

- ・「高齢者の方々もっと元気になってほしい！！」をコンセプトとし、「気持ちはまだ 20 代！が、参加したらもっと元気になる！」をスローガンとし、愛宕公園でラジオ体操をやっている人口を増やし、体操を通じて友達を増やして（こちらに小、中、高校生）健康になってほしい。予算：広めるためのポスター、チラシ作り 50 万。教育委員会、小・中・高校、役場、自治会の方々がサポートする。

●「移住者のための子育てのまちづくり」事業

- ・町外から移住したくなる子育てのまちづくり。例）町が子育て宣言し、子育てに予算を増やす。子育て支援は将来的に社会福祉へとつながる。0～2歳の子どもを預けて、親が息抜きできる場所づくり（地域で育てる）。A L Tの増員。

●「高齢者の集まりの場」事業

- ・高齢者の集える場所が少ない。毎日集える場所をオープンする。温泉を掘り、老若男女楽しく施設をつくる。

・安全・安心関連

提案内容

●「熱中症対策」事業

- ・涼しい施設の無料開放。

●「災害用倉庫設置」事業

- ・災害時に使える防災グッズを揃えた倉庫を各主要なところに置く。

●「雪かき支援」事業

- ・「自治体一丸で雪害から町を守りつつ事業を通じて技術を習得する」をコンセプトとし、雪かき道具の自由貸出。雪害情報の共有、助け合い。役場、消防がサポートする。

●「全町民マッちょ事業」事業

- ・「全町民の筋肉を発達させることにより、災害時の避難や不審者からの自己防衛、高齢者の救護活動支援の活性化を図る（テストステロン高まる）」をコンセプトとし、週1回パーソナルトレーナーからの筋トレ指導。ジム代無料。プロテイン等サプリメントの支給。自己筋トレ用のダンベル等の借用。予算2,000万。

●「避難訓練実施事業」事業

- ・町全体で年1で実施する。備えるまち。市町村職員、企業。

●「災害対策」事業

- ・災害に備えるために自分の身の回りの必要を知る。地震や水害…物を整理等（ケガをしないため）、持ち出す物を準備（薬、入れ歯、眼鏡等）。行政はすぐ対応できないので、最低の飲料水や食料を備えておく。持出リュック等に入れておく（家族の写真等も）（トイレの準備も必要）。生き延びるための勉強も必要と思う。

●「空き地の住宅化」事業

- ・空き地を利用して、住宅地として提供する。防災センターを構築する。道の駅のない野辺地は、センターを中核として子育て、高齢者支援、食育、福祉センターを兼ねて集約的役割をなす。



この分野においては、地域のつながりを再構築するためのアイデアが多く見られました。

・地域コミュニティ作り・ボランティア関連

提案内容

●「町内会、会同士での交流促進」事業

- ・町内会や会同士での交流→住民間の交流増⇒防犯等→例）勉強会、ＢＢＱ、スポーツイベント。

●「地域コミュニティ維持」事業

- ・地域のつながりや支援。高齢化が進み、地域の活力が失われつつある。自治体が地域コミュニティを維持し、活性化させる。婦人会、子ども会がサポートする。

●「高齢者見守り隊」事業

- ・「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」をコンセプトとし、高齢者見守り隊をつくり、定期的に高齢者の安否確認と交流をする。自治会員で相互に協力し合う。

●「地域ふれあい交流会」事業

- ・「各町内会同士で交流を深めて、町の活性化を図る」をコンセプトとし、1つの会場に全町内会が集まり、各町内会の現状や、今後運営していく中での懸念などについて話し合う。予算：10万（食糧費等）。町がサポートする。

●「ちょこっとお助け事業」事業

- ・30分～1時間くらいでできる簡単な手伝いをする。助け合いの町。学生～元気な高齢者まで。

●「異世代交流」事業

- ・若い人、お年寄り、一緒に活動する。若い人が町内の活動に集まれるようにアピールする。交流の場をつくって、昔ながらの遊びや町の歴史について勉強する。町、自治会、学校がサポートする。

●「サークル活動の充実」事業

- ・「趣味でつながるまち」をコンセプト、「子どもも大人も生涯の趣味でつながろう」をスローガンとし、同じ趣味、スポーツでサークル活動を行う。例）吹奏楽団、バレーチーム、ボウリング同好会。予算500万（会場のレンタル、道具、広報）。ボランティアを募る（代表者となる）。

●「ボランティア」事業

- ・「野辺地の人たちは恥ずかしがりが多いので、もっと前に出てほしい」をコンセプトとし、「役場、おそうじ本舗の方」をスローガンとし、まずは若い力を借りて（小・中・高←特に高校生。思い出になる）に、山・海・川の清掃から始める。次々とボランティアをする内容をみんなで話し合って決める。予算0円。

●「一」事業

- ・自治会の活動について、老人が増加し活動がなかなかできない。若者達がなかなか出てこれない。夫婦とも働いているため。自治会活動が活性化するために、何かできることがないか？1人ひとりの出番が必要となる工夫。例えば、料理名人に教えてもらう等。昔のことを聞く場もあって良いかも、子ども会等で。

●「野辺地を学ぶ歴史勉強会」事業

- ・勉強会について。野辺地町はとても歴史の深い町です。町民の方々が、この素晴らしい野辺地町の歴史を知らずにいるので、もっと知るチャンスがあっても良いと思います。野辺地物語を作って、いろんな面で旅人等をおもてなしができると思います。観光にも利用できると思う。野辺地町マイスター（歴史等）がいれば、町外の方々を案内できると思います。

●「住民交流の場」事業

- ・住民が気軽に交流できる場所をつくる（安全でいつでも集える）。場所を決め住民に周知。「気が向いたらいつでもおいで！たくさんお話ししましょう！」。リーダーとボランティア。屋外なら公園とか、屋内なら。

●「絵本を活用した新たなコミュニティ形成」事業

- ・新たなコミュニティ。絵本がつなぐ地域交流。町長が絵本の読み聞かせをする。絵本は競争しないため、多世代が交流できるツールになる。予算5万、お茶、お菓子代。図書館、本屋。

・地域のイベント・お祭り関連

提案内容

●「サークル活動の充実」事業

- ・地域のスポーツクラブ同士の交流会や意見交換のできる施設の建設。クラブの長同士で会議をしたり、選手同士で交流する場を設けて競技種目の壁を超えた交流。

●「町をもっと盛り上げ隊」事業

- ・町民が集まる場をつくる！職員、町内会、NPO法人、誰でも参加できる場をつくり、アイディアを出しまくり、イベントを年4回開催を目指す。春、桜の下でカラオケ。夏、海でBBQ+婚活。秋、紅葉アート、冬、雪だるまづくり大会。イベント少ないよね…という声がある…。

●「スポーツ大会」事業

- ・自治体対抗のスポーツ大会。町外の知り合いを呼んでもOK。賞品は米と町の商品券。

●「自治会大運動会の開催」事業

- ・「高齢化が進み、各地域の衰退が見込まれる中で、全自治会員が集って交流することで、地域の活性化町の活性化につながる」をコンセプトとし、運動会の開催。予算200万円。町がサポートする。

●「観光」事業

- ・「町民の方がまず何の祭りが、行事をしているから不明な方が多いので…」をコンセプトとし、「まずは町民の方に知ってもらい→観光につなげよう！！」をスローガンとし、行事や祭りの際、まずは町民の方に知ってもらうため町に看板を設置、町内放送を活用。予算100万円。商工会、役場、デザインの仕事をされている方、小・中・高校生がサポートする。

●「ゲーム大会」事業

- ・年1回、町の特産物を生かして楽しめるゲーム大会のようなものを開く。例、こかぶの薄切りとか。町内外から参加したいと思えるような大会。

・その他

提案内容

●「大規模スポーツ複合施設建設事業」事業

- ・「サッカー場、野球場等様々なスポーツ施設を建設し、プロリーグの試合会場やコンサートの会場等として利用してもらい、町の活性化を図る」をコンセプトとし、サッカー場、野球場などの施設建設。併せて公園等も整備。予算 30 億。

●「町営温泉付ジム・スーパー」事業

- ・「町の人も外の人も集まれる場所」をコンセプトとし、町営の温泉と運動施設（ジム）をつくり、施設内ではスーパーをつくる。

●「まちづくり意見交換会」事業

- ・今やっているみたいに、まちづくりに対して意見を出し合う。それを関係機関へ。関係機関→町のリアルな声を聞ける→実現へ？町民→いろんな意見を聞ける→実現する時は協力も？

●「自治会回覧板デジタル化」事業

- ・回覧板をスマホで見れるようにする。若い人にも何の行事が行われているか分かるようにすれば、参加しやすくなる。

●「若い人との交流会」事業

- ・高校生や中学生が今考えていることを聞く機会をつくって、働く世代の人たちがこれからやっていくことを考える参考にする。

●「勉強会等の地域活動」事業

- ・地域活動など、勉強会を増やしてほしい。自分の町のことを保育園の人とかにつたえれば、野辺地町に住む人が増えると思うから。

●「ほんずなしからほんずありへ」事業

- ・「北東北に根付いた死生観を身に付ける」をコンセプトとし、山守を体験し、地続きな生き死にに気づく。焚火WS、ヤマatching（自然と出会う）。予算 300 万（研修費、講師代）。馬門山族、野辺地町地域おこし上野さんがサポートする。

●「共同投資」事業

- ・共同投資を住民全体で行う。出資資金に応じて還元していく。他ではやっていないので、この町の特権。お金持ちの移住が増え、税収もアップ。

●「リサイクル」事業

- ・リサイクルの場所をつくる。家で不要なものを集める所をつくって、いつでも、その中で自分が必要と思ったら、自由に持って行っても良い。そうすれば粗大ごみも少なくなるし、タダで自分の必要だと思う物を家に持って帰れる。

●「税金のないまち」事業

- ・税金のないまち。役場自体がお金を稼ぐ生産性があるので、住民から税金を取らなくてもよい。

参加者の皆様、どうもありがとうございました。